

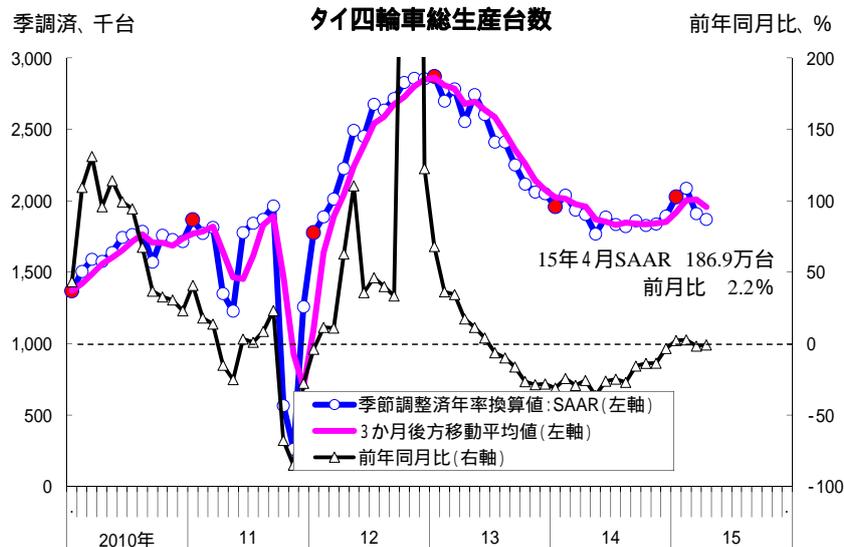
タイ自動車市場月次統計（2015年4月）

4月は国内販売が底割れ：堅調な輸出が内需減少を補いきれず、増産基調が崩れる

国内需要の低迷が深刻：15年国内販売台数の前年超えに黄色信号

- ・ 5月25日にタイ工業連盟（Federation of Thai Industries）が発表した2015年4月の四輪車生産台数は前年同月比0.9%減の12.6万台と、2か月連続の前年割れとなった。季節調整済年率算値(X-12-ARIMAにて当社試算、以下SAAR)も前月比2.2%減の186.9万台と、5か月ぶりに減少に転じた3月を更に下回った。月を追うごとに深くなる内需の落ち込みを堅調な輸出が補うことができず、昨年末からの増産基調が崩れる結果となった(図表1)。
- ・ 4月のタイの四輪車総輸出台数は前年同月比17.7%増と6か月連続の前年同月超えとなった。SAARは前月比5.7%減の128.3万台と4か月ぶりに減少に転じたが、高水準を維持している(図表2)。
- ・ 今月の統計での注目点は、国内販売が底割れしたことである。4月のタイの総販売台数は前年同月比26.2%減と24か月連続で前年を割り込んだ。SAARは前月比14.4%減の69.0万台となり、これまで低位横ばい推移であった国内販売はついに底割れした(図表3)。なお、15年1～4月のSAAR平均は78.9万台である。14暦年の国内販売台数は88.2万台であったので、足元の販売水準がこのまま年末まで続くと、15年の国内販売は3年連続の前年割れとなる。農産物価格の低迷により農民の購買意欲が減退していることと、自動車ローン審査の基準厳格化が国内販売の足かせとなっている。
- ・ 5月21日、トヨタ自動車は世界戦略車「IMV」のピックアップトラック「ハイラックス」をフルモデルチェンジした。国内販売の低迷が深刻化する中、今後は同モデルの輸出展開の規模とスピードが大きな関心事となる。輸出が生産の下支えとなる状況が続くが、輸出増加と内需減少が綱引きをするかたちで、タイ国内生産は一進一退の神経質な展開を続ける見通しである。

図表1 自動車生産台数のSAARは2か月連続の減少

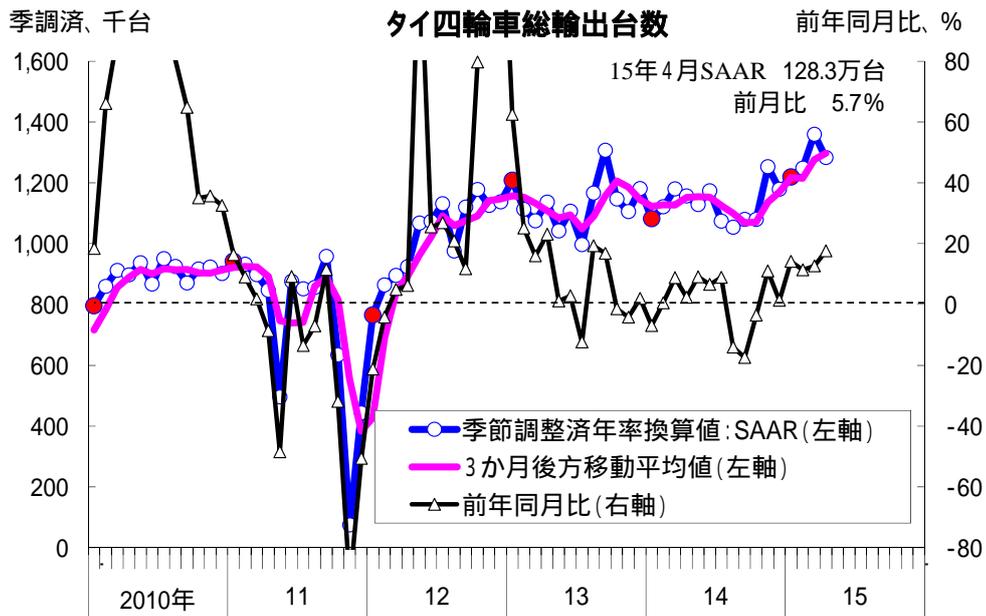


注1： 赤塗りマーカーは各年の1月実績値。

注2： SAARは米センサス局法X-12-ARIMAにて浜銀総合研究所が試算。

出所： Federation of Thai Industriesのデータを基に作成

図表2 輸出台数のSAARは4か月ぶりの減少だが、高水準を維持

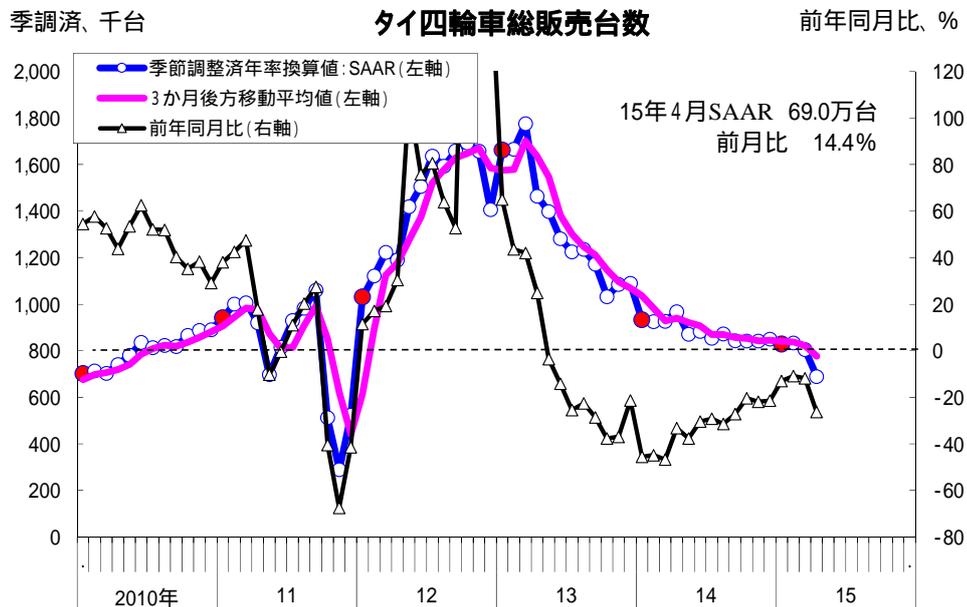


注1: 赤塗りマーカ-は各年の1月実績値。

注2: SAARは米センサス局法X-12-ARIMAにて浜銀総合研究所が試算。

出所: Federation of Thai Industriesのデータを基に作成

図表3 国内販売がついに底割れした



注1: 赤塗りマーカ-は各年の1月実績値。

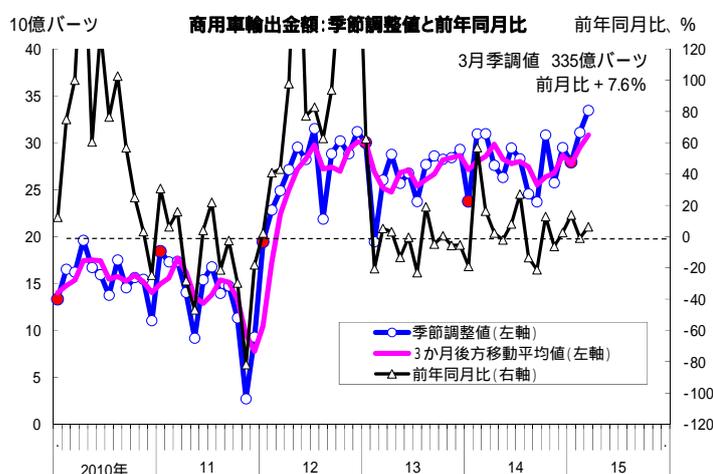
注2: SAARは米センサス局法X-12-ARIMAにて浜銀総合研究所が試算。

出所: Federation of Thai Industriesのデータを基に作成

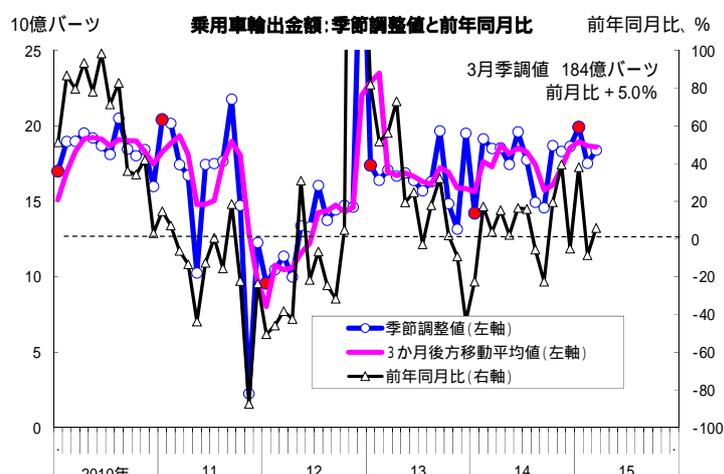
ピックアップトラックの堅調な輸出拡大が進むが、乗用車の輸出には頭打ち感

- ・ 図表4では、タイ中央銀行が公表している商用車（主にピックアップトラック）と乗用車の輸出金額の推移を表している。直近で入手可能なデータは同行が4月末に発表した15年3月の貿易統計となるが、ピックアップトラックの輸出拡大が続いている一方で、乗用車の輸出には頭打ち感が出ているのが分かる。
- ・ ピックアップトラックの3月の輸出金額（季調値）は前月比で7.6%増加した。三菱自動車が出社タイ工場生産する新型ピックアップトラック「トライトン」の輸出が2月9日にスタートし、3月は同社の輸出台数が1988年の輸出開始以来最高となったことが、輸出台数増加の推進力となったと考える。
- ・ 一方、3月の乗用車輸出金額は前月比5.0%増加したが、3か月後方移動平均値で見たトレンドは、1月から頭打ちの状況である。昨年末から、マツダやホンダ、スズキが出社タイ工場生産する新型グローバル車種の輸出を積極的に増やしていたが、足元ではこれら車種の輸出拡大が一段落したものと推測する。
- ・ 前述したように、4月の輸出台数（SAAR）は前月比で減少に転じたが、今後、輸出台数の回復を大きく左右するのは、トヨタ自動車の新型ピックアップトラック「ハイラックス」の世界拡販動向であると考えられる。多くの自動車関連企業が16年3月期のアジア事業の収益改善を見込んでいるが、タイでの緩やかな自動車生産の回復を業績拡大の一因と捉えている。足元で想定以上に低迷する内需を、新型ピックアップトラックの輸出拡大が吸収できるか。グローバル基幹車種として全世界で積極販売される、トヨタ新型IMVの輸出展開の規模とスピードに要注目である。

図表4 商用車輸出の拡大は堅調だが、乗用車の輸出には頭打ち感



注1: 赤塗りマーカーは各年の1月実績値。
注2: 季節調整値は米センサス局法X-12-ARIMAにて浜銀総合研究所が試算。
出所: Bank of Thailandのデータを基に作成



注1: 赤塗りマーカーは各年の1月実績値。
注2: 季節調整値は米センサス局法X-12-ARIMAにて浜銀総合研究所が試算。
出所: Bank of Thailandのデータを基に作成

担当: 調査部 産業調査室 深尾三四郎

TEL 045-225-2375

E-mail: fukao@yokohama-ri.co.jp

本レポートの目的は情報の提供であり、売買の勧誘ではありません。本レポートに記載されている情報は、浜銀総合研究所・調査部が信頼できると考える情報源に基づいたものですが、その正確性、完全性を保証するものではありません。